

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 4 月 24 日現在

機関番号：14301

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2011～2013

課題番号：23730578

研究課題名(和文)現代若者の不適応感とその対処：文化心理学的検討

研究課題名(英文)Cultural psychological research on maladaptiveness among Japanese youth

研究代表者

内田 由紀子(Uchida, Yukiko)

京都大学・こころの未来研究センター・特定准教授

研究者番号：60411831

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,000,000円、(間接経費) 900,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では若者の対人関係についての認知と感情ならびに対人関係から生じる不幸せ感への対処方法を検討し、心の健康と文化的適応に関連する諸分野への貢献を目指した。日本文化の中で中心的に見られる現象だけではなく、一般的傾向とは異なる行動様式や価値基準を持つ若者たちを対象に調査を行うことで、日本文化のグローバリゼーションや経済的な停滞による若者の心の変化を検証した。今後の展開として、多層な文化的価値観の間で生じる葛藤について検討することにつながる枠組みを構築した。研究期間全体を通して、現代日本における不適応状態の実態の把握と日本社会を巨視的に見た際の文化的背景と心の問題との関連について検討を行った。

研究成果の概要(英文)：The goals of the present research are to systematically and empirically investigate the youth problem in Japan from cultural psychological perspective. In investigating the cause of mental problem especially among NEET and Hikikomori, the research focused not only on individual psychological processes but also from sociological and cultural theories (such as globalization). For example, 1)the negative effect of individualism on well-being in Japan; 2)impact of socioeconomic status on motivation among youth; and 3)characteristics of Japanese happiness and well-being have been investigated. By integrating these perspectives, present research will be able to offer an empirically validated and theory-driven understanding of what is happening at the conflict between several cultural values (e.g., individualism vs. interpersonal orientation) to afford the mental health issues among Japanese youth.

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：心理学・社会心理学

キーワード：文化 幸福感 対人関係 グローバリゼーション 不適応 ひきこもり

1. 研究開始当初の背景

これまでの文化心理学の知見からは、日本文化は関係志向的、もしくは相互協動的/集団主義的であるとされてきた。北米文化と比較すると、自己評価、対人関係、感情経験、幸福感、認知様式など、様々な点で日本文化に生きる人々が「関係性」を重視していることが示されてきている。しかしその一方で、日本においては、「ひきこもり」など、不適応感や対人関係の難しさとコミュニケーションの不全が取り上げられることも多くなってきている。これらの問題は、社会学などのマクロなアプローチや臨床心理学などの個別的アプローチやなどで研究がなされることが多かった。たとえば「ひきこもり」は経済不況による雇用の不安定化などの社会的状況の要因、また、家庭環境やパーソナリティ、認知構造などの個別的要因も存在するであろう。しかしなぜある特定の社会・文化的状況の中で、たとえば非行などの「外に発する」行動ではなく「ひきこもり」のような特定の現象が見られるのかについては明らかにされていない。

2. 研究の目的

これまで心と文化の相互構成プロセスについて検討を重ねてきた文化心理学的知見から若者の心の問題にアプローチすることによって、新たな知見が生み出される可能性がある。このような視点に立ち、若者の対人関係の認知と、その中に内包される負の感情への対処方法について検討する。

具体的には若者の対人関係についての認知と感情、対人関係から生じる不幸せ感や悲しみ、怒りなどの「負の感情」への対処方法を検討し、心の健康と文化的適応に関連する諸分野への貢献を目指す。さらに、日本文化の中で中心に見られる現象だけではなく、一般的傾向とは異なる行動様式や価値基準を持つ若者たちを対象に調査を行うことで、日本文化のグローバリゼーションや経済的な停滞による若者の心の変化を検証する。「心の不適応」については、個別事例的アプローチから検討されてきたことが多く、文化・社会と心との相互作用の視点からの検討は数少ない中で、新たな視点からの社会的貢献を目指す。

3. 研究の方法

平成 23 年度には特にグローバリゼーションが日本の若者の適応感に与える影響について、実証的研究ならびに調査研究を行った。具体的には、若者のニート・ひきこもり傾向について精査し、それらが動機付けとコミュニケーション場面での認知に与える影響についてそれぞれ実証的研究を行った。

また、グローバリゼーションによる個人主義や個人の成果主義の導入が日本社会と心の適応感の変容に関与していることを示す検討も行った。日米大学生に個人達成志向的

な状況に置かれたときを想起させ、幸福感や対人関係を評価してもらった。

平成 24 年度には震災前後におけるパネルデータを用いた若者の幸福ならびに不適応状態の変化、ならびにニート・ひきこもりリスク傾向の高い若者の認知と感情についての検討、そして怒りや恥などの感情状態への対応における日本とベルギーの文化差、についての検討を行った。

平成 25 年度には、グローバリゼーションが進む日本において、個人の達成を求めるような個人主義傾向をもつ人たちが感じる対人関係や幸福感についての、若者並びに一般成人への調査研究をまとめ、日本で顕在化してきた「社会階層」がニート・ひきこもり傾向に与える要因を、若者ならびに一般成人への大規模データを用いて検証した。さらには日本文化において育まれる適応感がどのようなものであるかについての理論を包括的に構築した。

4. 研究成果

ニート・ひきこもり傾向が高い大学生は、就職活動など社会との統合が求められる局面において特に自己の不全を起こしやすいこと、ニート・ひきこもり傾向のリスクが高い若者は他者の表情認知において、周辺情報への注意の程度が過度に高いことなどが明らかにされた。また、日本では個人達成志向的傾向が強い人々は、より親しい友人が少なく、幸福感が低いことも示された。

また、震災後の価値観や幸福感変化においても、対人関係志向と個人志向のいずれかに日本の若者が二極化する傾向についても明らかにになった。さらにはヨーロッパと日本における怒りと恥の意識と対処法略の違いを具体的に検証した。

研究期間全体を通して、現代日本における不適応状態の実態の把握と日本社会を巨視的に見た際の文化的背景と心の問題との関連について検討を行った。そして、良好な対人的コミュニケーションを支える認知・感情の仕組みについて検討し、文化・社会の中での適応に向けた中・長期的介入アプローチの開発を試み、教育現場や社会集団へのフィードバックを試み、企業やNPOと連携した事業を実施した。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 13 件)

Toivonen, T., Norasakkunkit, V., & Uchida, Y. (2011). Unable to conform, unwilling to rebel? Youth, culture and motivation in globalizing Japan. *Frontiers in Cultural Psychology*, 2:207. doi: 10.3389/fpsyg.2011.00207
内田由紀子 (2011). 「日本文化における

幸福感-東日本大震災後の復興を支える心理と社会システム-」『計画行政』2011, 34, 11-26.

Norasakkunkit, V., & Uchida, Y., (2011). Psychological consequences of post-industrial anomie on self and motivation among Japanese youth. *Journal of Social Issues, 67*, 774-786.

Norasakkunkit, V., Uchida, Y., & Toivonen, T. (2012). "Caught between culture, society, and globalization: Youth marginalization in postindustrial Japan," *Social and Personality Psychology Compass, 6/5*, 361-378.

内田由紀子・遠藤由美・柴内康文(2012). 人間関係のスタイルと幸福感：つきあいの数と質からの検討 実験社会心理学研究, 52, 63-75.

内田由紀子・荻原祐二 (2012). 文化的幸福観：文化心理学的知見と将来への展望 心理学評論, 55, 26-42.

Uchida, Y., & Ogihara, Y. (2012). "Personal or interpersonal construal of happiness: A cultural psychological perspective," *International Journal of Wellbeing, 2*, 354-369.

Boiger, M., Mesquita, B., Uchida, Y., & Barrett, L. F., (2013). Condoned or condemned - the situational affordance of anger and shame in the US and Japan. *Personality and Social Psychology Bulletin, 39*, 540-553.

内田由紀子 (2013). 日本文化における幸福と持続可能な社会への提言 季刊環境研究, 169, 44-52.

Ogihara, Y., & Uchida, Y. (2014). Does individualism bring happiness? Negative effects of individualism on interpersonal relationships and happiness. *Frontiers in Psychology, 5*:135. doi: 10.3389/fpsyg.2014.00135

Hitokoto, H., & Uchida, Y. (in press). Interdependent happiness: Theoretical importance and measurement validity. *Journal of Happiness Studies*

内田由紀子 (2014). 東日本大震災後の幸福：震災がもたらした人生観と幸福感の変化. 季刊環境研究, 172, 83-91.

Uchida, Y., Takahashi, Y., & Kawahara, K. (2014). Changes in hedonic and eudaimonic well-being after a severe nationwide disaster: The case of the Great East Japan Earthquake. *Journal of Happiness Studies, 15*, 207-221. 10.1007/s10902-013-9463-6.

Uchida, Y. Emotions as within or between people? : Cultural variation in subjective well-being, emotion expression, and emotion inference. Plenary meeting of the International Society for Research on Emotion. Kyoto. 2011.7.26.

Uchida, Y., "Happiness before and after a severe nation-wide disaster: The case of the Great East Japan Earthquake," In Asia-Pacific Conference on Measuring Well-being and Fostering the Progress of Societies, Tokyo. 2011.12.5.

Uchida, Y. "Did you notice how I helped you? Cultural differences in support monitoring." In symposium: Cultural dimensions of responsiveness to need and social support (Chair: Joan Miller). International Society for the Study of Behavioral Development 2012 Biennial Meeting, Edmonton, Canada.. 2012, 7.11.

内田由紀子「幸福の対人的基盤」日本心理学会第76大会 ワークショップ(発表兼企画)『幸福感研究の多面性：社会構造、対人的側面、神経基盤』(専修大学、神奈川県川崎市) 2012. 9.13.

内田由紀子「日本における文化的幸福観と幸福度指標」行動経済学会第6回大会『幸福について - 幸福度の社会での活用に向けて』2012. 12.9.

Uchida, Takahashi, & Kawahara, Happiness before and after a severe nation-wide disaster: The case of the Great East Japan Earthquake. 12th Meeting of the German-Japanese Society for Social Sciences (Bad Homburg, Germany) 2013.5.21.

Uchida, Y. Further directions in research on well-Being: Strategies for achieving well-Being in changing cultural contexts and under stressful situations. 12th Meeting of the German-Japanese Society for Social Sciences (Bad Homburg, Germany). 2013.5.22.

Uchida, Y. Japanese well-being and its change under globalization. In symposium: Psychological basis of social inequality in health: The International Conference on Social Stratification and Health (University of Tokyo, Tokyo), 2013.9.1.

内田由紀子「文化変容と心の適応」ワークショップ：文化心理学の新展開：神経科学、生命科学、発達科学、そして社会科学との接点を探る," 日本社会心理学会第54回大会(沖縄国際大学、宜野湾市) 2013.11.2.

Norasakkunkit, V., & Uchida, Y. (2012). Marginalized Japanese youth in post-industrial Japan: Motivational patterns, self-perceptions, and the structural foundations of shifting values. ” In Trommsdorff, G., & Chen, X. (Eds). *Values, Religion, and Culture in Adolescent Development*. (pp. 211-234). Cambridge: Cambridge University Press.

河合俊雄・内田由紀子 (2013). ひきこもり考 創元社

Uchida, Y., Norasakkunkit, V., & Kitayama, S. (2013). Cultural constructions of happiness: Theory and empirical evidence. ” In A. Delle Fave (Ed.), *The exploration of happiness: Present and future perspectives*. (pp. 269-280). Springer.

内田由紀子 (印刷中). 文化の変容と心の適応. 山岸俊男 (編著) 「社会行動の文化・制度的基盤」 勁草書房

Uchida, Y., Ogiwara, Y., & Fukushima, S. (in press). Cultural Construal of Wellbeing: Theories and Empirical Evidence. In Glatzer, W., Moller, V., Camfield, L., & Rojas, M. (Eds.). *Global Handbook of Quality of Life. Exploration of Wellbeing of Nations and Continents*. Springer.

(2)研究分担者 ()

研究者番号 :

(3)連携研究者 ()

研究者番号 :

〔産業財産権〕

出願状況 (計 0 件)

名称 :
発明者 :
権利者 :
種類 :
番号 :
出願年月日 :
国内外の別 :

取得状況 (計 0 件)

名称 :
発明者 :
権利者 :
種類 :
番号 :
取得年月日 :
国内外の別 :

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1)研究代表者

内田 由紀子 (UCHIDA, Yukiko)
京都大学こころの未来研究センター特定
准教授
研究者番号 : 6 0 4 1 1 8 3 1